

弘前大学理工学部後援会報

第17号

発行日 令和3年2月22日
 発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
 弘前大学理工学部後援会(理工学部内)
 印刷所 (株) 笹 軽印刷
 連絡先 上原子晶久(理事・教員)
 TEL: 0172-39-3620



部・理工学研究科へのご支援を賜り、大変ありがとうございます。

令和を迎えて二年目の今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年とは大きく異なる一年になってしまいました。幸い、学内で感染が広がることもなく大きな混乱はありませんでしたが、学生の皆さんには、前期の授業がインターネット等を活用するメディア授業に切り替えられたことで教室での語り合いの機会が少なくなったり、実験実習の機会が制限されてしまったりと、例年とは異なる状況下での大学生を送っていただかざるをえない状況になってしまいました。一方で、授業の記録を画像や音声とともに残すことができるようになったり、提出物の電子化が進んだりと、新しい教育のあり方を経験することができたことは、好ましいこととして受け

コロナ禍のオンライン授業

弘前大学理工学研究科長・理工学部長

佐藤 裕之

止めたいと考えています。

理工学部は、一九九七年秋の設置から二十四年目を迎えております。国立大学としては数少ない理工学部としてスタートしましたが、現在では老舗の理工学部になりました。この三月までの卒業生は五千八百名余、また理工学研究科の修了生は千七百名余になります。卒業生・修了生の皆様の社会での活躍も高く評価されるようになりましたが、これも後援会皆様の長年のご支援があったればこそのことと感じております。

大学院理工学研究科では、今年度から新しい編成で教育研究をスタートしました。体系的な学修を経験した大学院修了生の一層の活躍が社会から期待されており、多くの求人を集めています。学生・保護者の皆様には、大学院での学修を進路の一つとしてご検討いただければ幸いです。

教職員一同、学生・保護者の皆様に意義ある学生生活を送ることができたと思っただけのような教育と研究を進めて参りたいと考えています。ご関係皆様のご支援を重ねてお願い申し上げます。



玄関ホールに設置したサーモグラフィーカメラ等



講義室入り口

しなやかな理系リーダー

弘前大学理工学部後援会

会長 高木幸路



後援会の皆様には、平素より格段のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。後援会は、これまで着実に事業の展開に取り組み参りました。今年度も大学

と情報交換を図り、後援会役員一同、年間の事業や、理事會・総会等の準備を進めて参りましたが、昨年来の新型コロナウイルス感染拡大によって全ての会議が中止となり、やむなく紙上にて会の運営を諮ることとなりました。後援会会員の皆様、そして運営に関わる全ての人々の安全確保を最優先し判断致しましたことを、ご理解下さいますようお願い申し上げます。合わせて皆様のコロナ禍でのご苦勞をお察し申し上げます。

さて、コロナ危機に直面している現在、国のリーダーに求めたい力として、コミュニケーション能力・共感力・科学的根拠に基づいて対策を強く打ち出す判断力を日々実感しております。これ等は皆、国民が混乱なく政府への信頼を持ち続けるためには不可欠なものばかりです。この三つの力に秀でたリーダーとして、ドイツのアンゲラ・メルケル首相がいます。昨年十二月九日、ドイツで新型コロナウイルス感染による死者数が過去最多の五九〇名に上ったことを受け、連邦議会において「クリスマス前に多くの人と接触することで、祖父母と過ごす『最後』のクリスマスになってはいけません。普段は冷静沈着な首相ですが、この日ばかりは感情を露わに、両手を合わせ懇願し、拳を握り強い口調で演説するスピーチに、世界中が共感しました。ここで、同首相の注目すべき点は、理系バックグラウンドから納得するまで数値解析を行い、数字を多用し

ながら国民には今が如何に危機的状況であるかを明確に伝え認識を共有したこと、未知の分野にはとんとん謙虚になって専門家の意見を尊重し、更に感染症対策チームを編成しながら、常に一緒に取り組む誠実な姿勢に国民が共感したことです。

我が理工学部の学生諸君には、コロナ禍にあっても夢を見失うことなく「自分が果たす役割は何か」をじっくり追究し、メルケル首相のように人生をしなやかに逞しく生きていただきたいと思う今日この頃です。

保護者懇談会中止の報告

理工学部学務主任 片岡俊一

例年は理工学部後援会のご支援を頂き、札幌会場と弘前会場で実施してまいりました保護者懇談会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止させて頂きました。当初は、両会場とも実施の方向で検討しておりましたが、感染防止対策が難しいこと、弘前会場においては総合文化祭が中止となったことから、会場への案内が難しくなり、両会場とも断念いたしました。

これまで、皆様に直接行ってきた、学部長挨拶、就職状況の報告、後援会・同窓会の説明、成績表の見方の説明については動画を作成し、動画配信サイトで保護者の皆様のみ公開いたしました。有益な情報となつたのであれば幸いです。

すでに、来年度の保護者懇談会の準備を始めています。保護者の皆様と元気な姿でお目にかかりたいと思っております。

「OB・OG講演会」報告

理工学部就職対策委員長 黒川敦

理工学部後援会から就職ガイダンス経費として「OB・OG講演会」の開催にご援助をいただきました

た。理工学部後援会の皆様に深く感謝申し上げます。本年度は、株式会社オリパス 生産技術本部コアプロセス技術部 竹内萌氏とルネサスエレクトロニクス株式会社 IoT・インフラ事業本部バックエンド&テストインテグレーション統括部 豊嶋太樹氏を講師にお招きし、十二月二日(水)に開催しました。コロナ禍の関係により、講義室での対面とオンライン配信を併用して実施しました。講義室に四三名、オンラインで六十名の計一〇三名という大勢の方々に参加いただきました。

竹内氏は平成二十八年三月理工学部知能機械工学科を卒業し、平成三十年三月理工学研究科知能機械工学科コースを修了しました。ご講演では、会社選びには重視したい条件を決めること、学生時代にワード・エクセル・パワーポイントを習熟することやロジカルシンキングを鍛えること、学生と社会人の大きな違いは責任の大きさであることなどのお話がありました。

豊嶋氏は平成二十七年三月理工学部電子情報工学科を卒業し、平成二十九年三月理工学研究科電子情報工学科コースを修了しました。会社を知るにはインターンシップや説明会で社員とお話すること、働く中で感じていることとして報連相(報告・連絡・相談)が大切で、簡潔で正確に主観を入れずにYesかNoで答えることが重要であることなどのお話がありました。参加者からはこれからの学生生活や就職活動に非常に役に立ったと好評でした。今後もご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



竹内氏講演



豊嶋氏講演

外部研究施設での実験実習

事業 (KEK) 報告

理工学研究科数物科学コース 手塚 泰久

茨城県つくば市にある高エネルギー加速器研究機構 (KEK) の放射光施設フォトンファクトリー (PF) で実習実験を行いました。一周187mの円形加速器から放出されるX線 (放射光) を利用した最先端の実験設備が利用可能で、大学施設ではできない高度な実験ができます。海外を含む全国からの利用申請があつて、それが受理されれば利用可能になる貴重な実験機会になっていきます。理工学部後援会からは毎年援助をいただいておりますが、本年も4名の学生が実習に参加することができました。コロナ禍での実習ではありましたが、安全に配慮して実験を行いました。本実習では、X線吸収や発光・散乱実験による物質の電子構造の研究と、蛍光X線ホログラフィー実験による結晶の3次元局所構造解析を行っています。数日にわたる24時間の実験を学生と教員が協力して実験を行った上に、放射光施設のスタッフや他大学の教員、学生などとの交流もあり、大きな研究施設ならではの貴重な経験ができたものと考えられます。KEK施設の内部は、Google Mapのストリートビューで見ることができですので、ぜひご覧ください。



地球環境防災学科の学生野外研修事業

「津軽西海岸地域の自然環境と防災施設の見学」の報告

地球環境防災学科 堀内 一穂

地球環境防災学科では毎年、二年生を対象にして、津軽西海岸地域での野外見学会を行っております。津軽西海岸地域には、発達した海岸段丘や江戸時代の地震隆起地形、日本海形成時以降の特徴的な地層・岩石・鉱物、日本海中部地震の津波を直接検出した駿潮所など、地球環境の変遷や地震防災に関する見学対象が豊富に存在します。現地までの移動には借り上げバスを利用しており、この費用を理工学部後援会に援助して頂いております。

本年度はコロナ禍の中、弘前での感染者数の動向を慎重に見極め、さらに見学対象者の直前の行動歴 (首都圏への滞在歴など) を事前に聞き取り調査した上で、十月三日の開催を決定するに至りました。また当日には、出発前の健康チェック (図1A)、バス内での手指の消毒と換気および分散着席の徹底、野外を含め全行程でのマスクの着用 (図1B) などの対策を講じました。さらに、感染への懸念などを理由に当日の欠席を選択した学生さんには、本年度は特別に動画にて見学旅行を提供しました (図1C)。最終的に、計五十名の当日参加者に加えて、七名もの動画での参加もあり、例年にも増して充実した見学会となりました。理工学部後援会からのご支援に、心より感謝申し上げます。



図1 A 朝の検温風景
B マスク着用での野外見学風景
C MS Teams を利用した見学会動画の公開ページ

本学 吉澤 篤理事 (企画担当)・ 副学長 (理工併任) からの寄付報告

弘前大学理工学部後援会 様

拝啓、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。この度、青森県工業技術教育振興会の特別功労賞を受賞いたしました。この賞は、理工学部の教員・職員の皆さんを代表し戴いたものと思っております。つきましては、副賞の五万円を理工学部後援会に寄付させていただきます。学生の支援にご使用いただければ幸いです。

末筆になりましたが、理工学部の益々のご発展を祈念いたします。

敬具

令和二年六月十五日

吉澤 篤

令和2年度 弘前大学理工学部後援会 役員等一覧

- 会長 高木 幸路
副会長 長尾 清志 (機械科学科)
理事
・通常会員
古川 貴広 (数物科学科)
佐藤 晴子 (数物科学科)
鶴田 清広 (物質創成化学科)
福原 幸司 (物質創成化学科)
柳町 幸 (物質創成化学科)
今 昭博 (地球環境防災学科)
中西 英樹 (電子情報工学科)
棟方 秀和 (電子情報工学科)
石川 雄二 (機械科学科)
長尾 清志 (機械科学科)
菊池 諭 (自然エネルギー学科)
・特別会員
竹内 大介 (理工学研究科教授・物質創成化学科)
上原子 晶久 (理工学研究科准教授・地球環境防災学科)
岡崎 功 (理工学研究科講師・電子情報工学科)
・賛助会員
高木 幸路 (弘前大学理学部昭和51年3月卒業生)
○監査
前田 清幸 (電子情報工学科)
○顧問
佐藤 裕之 (理工学研究科長・理工学部長)

令和元(2019)年度 弘前大学理工学部後援会決算書

Table with 4 columns: 収入, 支出, 繰越, 繰越金. Total revenue 3,419,516, total expenses 3,145,663, surplus 273,853.

Main expense breakdown table with columns: 収入, 支出, 繰越, 繰越金. Total revenue 3,811,081, total expenses 0, surplus 3,811,081.

Table with 4 columns: 収入, 支出, 繰越, 繰越金. Total revenue 3,811,081, total expenses 0, surplus 3,811,081.

令和2(2020)年度 弘前大学理工学部後援会予算書

Table with 4 columns: 収入, 支出, 繰越, 繰越金. Total revenue 3,858,953, total expenses 3,858,953, surplus 0.

Main expense breakdown table with columns: 収入, 支出, 繰越, 繰越金. Total revenue 3,811,081, total expenses 0, surplus 3,811,081.

Table with 4 columns: 収入, 支出, 繰越, 繰越金. Total revenue 3,811,581, total expenses 3,811,581, surplus 0.

会務報告(理事会、総会) 理工学部後援会 第17回総会

定例の理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため紙上理事会に変更し、書面での議決(期間六月八日から六月十五日)とさせていただきます。

紙上理事会では、役員の交代、監査結果報告、令和元年度決算案及び令和二年度事業計画と予算案について書面での議決が行われ、全員一致で承認されました。

定時総会は保護者懇談会開催(総合文化祭期間中)に合わせ、十月二十四日(土)

に開催予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見えない中で、総合文化祭が中止となったため、役員のみでの紙上総会(期間八月十一日から八月十七日)とさせていただきます。

来年度の定時総会は保護者懇談会開催(総合文化祭期間中)に合わせ、十月下旬頃に開催予定としました。また、理事会については、今年度は案件があれば開催することとし、来年度の開催は本年度と同様六月下旬頃に開催予定としました。

弘前大学理工学部後援会ホームページアドレス: http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/koenkai/

編集後記

昨年と異なり今年の弘前は、いつもの冬の風景が戻ってきました。年末年始にかけて雪は降り積もり、一月八日に66cmの積雪深を観測しています。その後は、ほとんど雪が降ることがないまま、この原稿を執筆している一月二十六日現在で35cmまで減りました。車道は全く雪のない状態で、昨年の風景と似ている状況です。今週末は再び強い寒波がやって来るようであり、いつもの冬景色になるものと思います。

(特別会員 理事 上原 晶久)